交通システム工　　学科・専攻

No.	書名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	推薦者資格・氏名		選書で想定する対象者 学年	配架(希望)先 駿河台校舎	配架(希望)先 船橋校舎	推薦理由(200文字前後を目安)	推薦書に関連する図書の情報(3～5冊程度)	書名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	備考
1	道路の日本史	武部健一	中公新書	2015	教授	峯岸邦夫	1年生			邪馬台国の時代に幅12mの道路と、通信用の駅馬制度が整備され、家康の時代に軍事優先から利便性を重視して整備を進める。名神高速道路の計画・実施者が語る生きた日本の道路史である。	1	道のはなしⅠ	武部健一	技法堂出版	1992	
							2年生以上				2	道のはなしⅡ	武部健一	技法堂出版	1992	
							全学年				3	中国名橋物語	武部健一	技法堂出版	1987	
											4					
											5					
2	日本史の謎は「地形」で解ける	竹村公太郎	PHP文庫	2013	教授	峯岸邦夫	1年生		○	京都が日本の都となったのは何故か。頼朝が狭く小さな鎌倉に幕府を開いたのは何故か。関ケ原勝利何故か。日本全国の「地形と気象」を知る河川技術者が歴史の専門家ではない視点で、日本史の様々な謎を解き明かす1冊。	1	日本史の謎は「地形」で解ける 文明・文化篇	竹村公太郎	PHP文庫	2014	
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
3	国土と日本人一災害大国の生き方一	大石久和	中公新書	2012	教授	下川澄雄	1年生			自然的条件の厳しい我が国において，どのようにして国土が形づくられ今日に至ったのか，またこれによって豊かさがどのようにもたらされてきたのか，国土学という観点からわかりやすく記された本です．	1	国土が日本人の謎を解く	大石久和	産経新聞社	9784819112659	
							2年生以上				2	国土学：国民国家の現象学	大石久和・藤井聡	北樹出版	9784779305009	
							全学年				3					
											4					
											5					
4	首都水没	土屋信行	文春新書	2014	教授	峯岸邦夫	1年生			筆者は、東京都のエンジニアで、江戸川区の河川部長を経験し、河川行政に関して、歴史・現況の課題に精通した人物である。「ゲリラ豪雨が山の手台地にやってくると、水害を起こす可能性がある」と指摘する。ひとたび東京で洪水が起きると、「東京の地下を繋げているのは地下鉄だけではなく、共同溝も洪水時に浸水を広げていく可能性」があるという。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
5	土木技術者の気概一広井勇とその弟子たち	高橋　裕	鹿島出版会	2014	教授	峯岸邦夫	1年生			土木学会が100年を迎え、われわれは来るべき百年を望み、偉大な先輩たちのように、気概豊な人生を生き抜き、新生日本のインフラ建設と整備に邁進したい。その時に明治初期の日本工学会から百数十年、その歴史の教訓をどのように学ぶかを説いている。	1	川から見た国土論	高橋裕	鹿島出版会	2011	
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					

No.	書　　名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	推薦者資格・氏名		選書で想定する対象者			推薦理由(200文字前後を目安)	推薦書に関連する図書の情報(3～5冊程度)					備　考
							学　年	配架(希望)先 駿河台校舎	配架(希望)先 船橋校舎			書　　名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	
6	日本の橋	五十畑弘	ミネルヴァ書房	2016	教授	峯岸邦夫	1年生			筆者は、日本大学生産工学部の教授であり、日本鋼管(株)で橋梁の設計を担当され、英国での海外文化も体験されたマルチなエンジニアである。その立場から、日本の橋の歴史・文化・技術・エンジニアについて、語った名著である。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
7	橋を通して見た風景	紅林章央	都政新報社	2016	教授	峯岸邦夫	1年生			筆者は東京都建設局橋梁構造専門課長であり、専門家が「橋は文明と文化の象徴である」という視点で、東京に架かる橋、特に、震災復興で架設された橋(清州橋、永代橋)等の技術・文化的な背景と、その設計を担当した人物を描いた名著である。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
8	日本の土木遺産	土木学会編	講談社	2012	教授	峯岸邦夫	1年生			日本の近代化を担った土木技術者は、第二次世界大戦後の復興から高度経済成長を担うことになる。本書で扱う土木遺産は明治維新以来の日本の近代化の生き証人として、各地域毎に、まとめられている。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
9	東京鉄道遺産「鉄道技術の歴史」をめぐる	小野田繁	講談社	2013	教授	峯岸邦夫	1年生			筆者は日本大学文理学部応用地学科を卒業し、現在は、鉄道総合研究所勤務。明治維新から社会基盤施設が整備され、特に、鉄道構造物は現在でも使われ続けている「遺産」である。本書は東京の鉄道構造物を中心に、歴史や見どころを解説した。	1	高架鉄道と東京駅(上、下)	小野田滋	交通新聞社	2012	
							2年生以上				2	鉄道と煉瓦	小野田滋	交通新聞社	2014	
							全学年				3					
											4					
											5					
10	建設技術史ー工学的建造技術への発達ー	H.シュトラウブ	鹿島出版会	1976	教授	峯岸邦夫	1年生			本書は建設技術(建築、土木ー橋梁、港湾、道路、水理等)の歴史的発達を古代から現代にいたるまで述べたもの。特に、古代、中世に展開された建設技術が、近代科学(力学、強度学、材料力学)によってどのように影響され、そのものの発展とともに、どのように歩んだかを記述している。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					

No.	書　　名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	推薦者資格・氏名		選書で想定する対象者			推薦理由(200文字前後を目安)	推薦書に関連する図書の情報(3～5冊程度)					備　考
							学　年	配架(希望)先 駿河台校舎	配架(希望)先 船橋校舎			書　　名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	
11	材料力学史　新装版	S.P.ティモシェンコ著、最上武雄監訳	鹿島出版会	~~1974~~ 2007	教授	峯岸邦夫	1年生			著者は、世界的に有名な材料力学の大家であり、その内容は、我々にとって、分かりやすく、うまくまとめられている。材料力学とは、弾性学、塑性学、流体学、強度学などを基礎として、機械や建設工学での実際の設計計算に役立たせるために、適当な簡素化、単純化を加えた実用的な学問であることを述べている。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
12	水理学史	H.ラウス、S.インス著、高橋裕、鈴木高明訳	鹿島出版会	1974	教授	峯岸邦夫	1年生			18世紀の水理学の発展が、水工技術に大きく貢献した。本書は古代、中世、17、18、19世紀の水理学の歴史を記述し、かつ、補章において日本における水理学の歴史を紹介している。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
13	技術屋の心眼	E.S.ファガーソン著、藤原良樹＋砂田久吉訳	平凡社	1995	教授	峯岸邦夫	1年生			心眼は、思い起こされた現実のイメージと、思い描いた工夫のイメージが存在する場所であり、信じられないほどの能力をもつ不思議な器官である。この思考様式の重要性を説いた本。	1					
					教授	下川澄雄	2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
14	ようこそドボク学科へ 一都市・環境・デザイン・まちづくりとドボクの学び方一	佐々木葉監修	学芸出版社	2015	教授	峯岸邦夫	1年生			本書は、大学などで土木を学ぼうとする人から、「あれ、もしかするとここってドボクだったの？」と学科に入ってから感じている人たちに向けて、ドボク的マインドを持った74名が記述した本である。これは2015年の土木学会出版文化賞を受賞した。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
15	Brückenbau 一博物館で学ぶ橋の文化と技術一	ドイツ博物館ディルク・ビューラー著、中井博＋栗田章光監訳	鹿島出版会	2003	教授	峯岸邦夫	1年生			本書は1998年にドイツ、ミュンヘンにあるドイツ博物館の改修に合わせて出版されたもので、ドイツ博物館に展示されている橋梁技術を中心に記述されている。現地には明石海峡大橋の実物大のケーブルが展示され、橋梁の歴史的・技術的発展を学ぶには、かっこうの本である。	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					

No.	書　　名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	推薦者資格・氏名		選書で想定する対象者 学年	配架(希望)先 駿河台校舎	配架(希望)先 船橋校舎	推薦理由(200文字前後を目安)	推薦書に関連する図書の情報(3～5冊程度)	書　　名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	備考
16	土木情報学ー基礎編ー	土木情報学委員会教育企画小委員会	丸善	978-4-8106-0937-0 2017	准教授	石坂　哲宏	1年生			土木分野でのICT活用において基礎となる情報理論・技術を体系的に整理し解説したものです。ICT教育の教科書として，また技術者個人の知識習得にも役に立つ本です。	1	空間情報工学概論　改訂版	近津博文	日本測量協会	2020	「土木計画学ハンドブック」は土木計画学分野でも必携の基本書である。
							2年生以上				2	GPS測量技術	佐田　達典	オーム社	2003	
							全学年				3					
											4					
											5					
17	土木計画学ハンドブック	土木学会土木計画学ハンドブック編集委員会 編	コロナ社	2017	准教授	石坂　哲宏	1年生			土木計画学に関する広範囲な知識の備えとその活用，行動・検証力をとりまとめ，今までの土木計画学分野の成果とこれからの指針を示した必携ハンドブックである。	1	交通工学ハンドブック	交通工学研究会	丸善	2014	「土木計画学ハンドブック」は土木計画学分野でも必携の基本書である。
							2年生以上				2	GPS測量技術	佐田　達典	オーム社	2003	
							全学年				3					
											4					
											5					
18	インフラストラクチャー概論 歴史と最新事例に学ぶこ れからの事業の進め方	中村 英夫(編著)、長澤 光太郎、平石和昭、長谷川 専著	日経BP社	978-4-8222-0063-3 2017	教授	福田敦	1年生			鉄道や道路、エネルギー施設、水道などの身近なインフラ(社会資本)について解説。インフラの歴史から整備・運営手法、投資計画、維持管理までの基本的な考え方を、豊富な実例を交えながら体系的に整理した本です。	1	東京のインフラストラクチャー―巨大都市を支える　第2版	中村英夫	技法堂出版	2004	「土木計画学ハンドブック」は土木計画学分野でも必携の基本書である。
					教授	佐田達典	2年生以上				2	道路投資の社会経済評価	中村英夫	道路投資評価研究会	1997	
					教授	轟朝幸	全学年				3					
					准教授	石坂　哲宏					4					
											5					
19	シェアする道路-ドイツの活力ある地域づくり戦略-	エルファディング・スザンネ 浅野光行 卯月盛夫	技能堂出版	2012	教授	下川澄雄	1年生			魅力と賑わいのある交通空間の再編については，既に欧州では種々の議論がなされ，多くの実践的取り組みがなされている．本著ではドイツでは中心として導入された，これに関係する先端的な施策を取り上げ，その背景や着眼点，法的制度，調整プロセスなどを含めてわかりやすく解説している．	1					
							2年生以上				2					
							全学年				3					
											4					
											5					
20	橋梁デザインの実際	鈴木　圭	コロナ社	2018	准教授	江守　央	1年生		○	橋梁デザインは、工学とデザインの両者を理解することが不可欠であり、これまでにない独創性が;求められることが多い。特に、設計競技では、これまで誰も考えたことのなかったコンセプトを提案し、新しい材料を組合せ、構造形式を提案することが競争に勝つための条件の一つである。では、どのようにして、それを身に着けるかということであるが、材料や橋の歴史を同時に学ぶことができ、デザインの実際を理解できる本ある。	1	BRIDGE 風景をつくる橋	大野美代子	鹿島出版会	2009	橋梁デザインの実際は、交通システム工学を専攻するエンジニアを育成する基本書である。
							2年生以上				2	BRÜCKENBAU 博物館で学ぶ橋の文化と技術	ディルク ビューラー編	鹿島出版会	2003	
							全学年				3	材料力学史	S. ティモシェンコ	鹿島出版会	2007 (1974)	
											4	建設技術史　第2版	H.シュトラウプ	鹿島出版会	1976	
											5	空間時間建築2	S.ギ―ディオン	丸善	1974	

No.	書　　名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	推薦者資格・氏名		選書で想定する対象者			推薦理由(200文字前後を目安)	推薦書に関連する図書の情報(3～5冊程度)					備　考
							学　年	配架(希望)先 駿河台校舎	配架(希望)先 船橋校舎			書　　名	著(編)者名	出版社	ISBN又は出版年	
21	夢追いびとたちの系譜 「土木のこころ」 復刻版	田村喜子	現在書林	978-4-7745-1884-8 2021年	教授	峯岸邦夫	1年生			田村喜子氏は、多くの土木技術者に関わる書籍を出版されている。土木技術者としてのやりがい、ロマンを熱く語っている。 「土木のわかる交通技術者、交通のわかる土木技術者」を目指す学生に是非一読して貰いたい。	1					
							2年生以上				2					
							全学年		○		3					
											4					
											5					